

社会福祉法人若葉会 平成 30 年度事業報告書

社会福祉法人若葉会 基本的な考え方

私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。

1. 法人の概要

(1) 施設並びに事業

保育所型認定こども園 わかば保育園
病後児保育事業：子育て支援拠点事業
小規模保育所 わかば保育園
塩沢金城わかば児童館
放課後児童クラブ 金城クラブ
放課後児童クラブ わかばクラブ
放課後児童クラブ 牧之クラブ
塩沢デイサービスセンターゆきつばき
総合施設ゆきつばき
居宅介護支援事業所ゆきつばき
雲洞デイサービスセンターつばき園
雲洞グループホームつばき園

(2) 役員

別紙（法人役員名簿参照）

(3) その他

姉妹法人 学校法人 金城学園

2. 事業の概要

- (1) 各施設管理者の育成
- (2) 各施設の事業計画に基づく事業の遂行
- (3) 職員研修並びに育成

3. 財務の概要

- (1) 平成 30 年度計算書類参照
資金収支計算書
事業活動計算書
貸借対照表
財産目録

4. 本年度の主な施設整備

- (1) つばき園施設整備 デイサービスフロアーをグループホームへの改修
（介護基盤整備事業補助金）
平成 31 年 3 月 12 日完成

5. 監査報告

- (1) 監事による監査報告

以上

役員・評議員・選任委員会委員 一覧

	氏名	部門
1	理事長 角谷 正雄	学識経験
2	理事 角谷 教恵	施設長
3	理事 大平 梨花	施設長
4	理事 岩田 拓	施設長
5	理事 南雲 武仁	施設長
6	理事 岡田 稔	学識経験

1	監事 桐生 厚義	学識経験(司法書士)
2	監事 阿部 淳	経営者
3	監事 八木 三男治	福祉関係

任期

役員(理事・監事)

平成29年6月20日～令和元年6月の定時評議員会
終了時まで

	氏名	部門
1	評議員 高野 信義	福祉関係
2	評議員 須藤 利春	福祉関係
3	評議員 桑原 博	福祉関係
4	評議員 山田 浩史	学識経験
5	評議員 高野 武彦	福祉関係
6	評議員 貝瀬 幹夫	福祉関係
7	評議員 洲崎 裕子	福祉関係
8	評議員 小林 英樹	医療関係者

評議員

平成29年4月1日～令和4年6月の
定時評議員会終了時まで

	氏名	部門
1	選任委員(外部) 高野 知文	経営者
2	選任委員(外部) 青木 則昭	経営者
1	監事 桐生 厚義	司法書士
1	事務局 若井 友子	若葉会職員
2	事務局 山之内 めぐみ	若葉会職員

※ 評議員選任委員会2名の退職に伴い、
新たに事務局員2名の選出をおこなうものとする。

評議員選任委員会

平成29年4月1日(実質的には理事会後)
～令和4年6月の定時評議員会終了時まで

※ 事務局から選任された委員の任期
平成31年4月1日～
令和4年6月の定時評議員会終了時まで

平成30年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名(塩沢金城わかば子育て支援センター・わかばクラブ・金城クラブ・牧之クラブ・塩沢金城わかば児童館)

項目	内容	具体的方策	評価・反省
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにかか担えないこと、私たちから挑戦しなければならぬことを適時的に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります	児童館の事業目的・運営・方針を理解・共感して子育て支援事業・放課後児童クラブの運営を行い、第三者評価受審の準備を整えることを通して、児童館の仕事に誇りを持ち、同僚との絆を深める。	
理念	児童館活動および子育て支援拠点事業を通して、家庭や地域社会及び姉妹園関連施設と連携を図り、子どもたちに健全な遊びを与え、健康増進と情操の涵養を図る		
	一人ひとりの児童がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさを持てるよう、放課後児童クラブにおいて直接的基本的な体験をさせる。		
1	“児童館”としての事業目的・運営・方針の理解	・教職員間の共通理解および協力体制を確認しつつ、月一回日曜日に児童館行事を開催する	・地域の幅広い年齢層に親しまれる行事を開催することができ、共通理解および協力体制を確認するにも有意義な機会となった。
		・地域の子育て支援事業利用者のニーズに応えられる魅力ある施設となるように、館内環境設定を整え、維持する	・子育て支援担当者の育休および病休により手薄になったが、工夫を凝らして対応できた。
		・学童期の児童にふさわしい保育環境を整え、安定した生活を送れるようにする	・館内の設備や遊具を活用し、安定した保育ができた。
		・小学生と乳幼児の触れ合いの機会を上げ、お互いに理解を深めることができるようにする。	・新採用者の研究のテーマであったので、他職員も協力・助言という形で関わり、小学生と乳幼児の触れ合いの機会を多く作ることができた。
	2 職員の資質や能力・良識の向上	・子育て支援事業担当者および放課後児童クラブ指導員・指導員補助の役割分担を明確にし、円滑な連絡協力体制を確立する	・各クラブ月案に各担当の業務を記入した内容については、補助担当者も共通理解でき円滑に進めることができた。次年度はさらなる活用を目指したい。
		・ママズカフェを月一回開催するなど情報収集に努め、地域の利用者のニーズに合った魅力ある子育て支援事業を実施する	・ママズカフェは定着し、リピーターだけでなく新規の参加者も来てくださり、多くの方の意見をお聞かせいただくことができた。
		・放課後児童クラブ運営指針に基づき、質の高い学童保育を目指す	・運営指針の内容を自己点検に盛り込んだことで、意識しやすく、かつ確認しやすくなった。
		・自己点検・自己評価の継続	・自己点検・自己評価からネットワーク会議での公表まで、一連の流れが定着してきた。
	3 地域の自然や社会との関わりを深める	・姉妹園・学童のみでなく、地域の小学校・保育所にも情報発信し、行事参加を促す	・日曜行事や学童フェスティバルへの参加者は大きくは伸びなかったが、各園へのお便り配布は定着してきた。
		・地域の公共施設及び関係者(子育てネットワーク会議等)・小学校との連携を図り、地域に密着した支援を行っていく	・児童館側の課題を明確にしてから臨むことで、子育てネットワーク会議に参加してくださった方から具体的で前向きなご意見をいただくことができるようになってきた。
		・ボランティアを積極的に受け入れ、本人と児童館利用者双方にとって有意義な機会となるよう調整を図る	・高校生や保護者のボランティアは定着し、参加者・ボランティア双方から満足の声を聞けるようになってきた。
	4 環境教育の活用、定着	・学童保育に畑を活用し、自然体験・エコ活動につなげる	・各クラブごとに区画を決め、植える野菜を子どもたちと一緒に決めるようにしたことで、保育に取り入れやすくなった。
		・水光熱費、ごみなどの無駄をなくし、現在ある設備を有効活用することで経費削減を目指す	・数値化は続けているが、まとめて分析するまでには至っていない。
	目標	・月一回日曜日に開催する児童館行事(50人定員)を地域に広く情報発信をすることで新規利用者を増やすとともに、学童児童の講座・教室への参加を促す(約18人・学童児の30%参加を目指す)	・各行事ともほぼ定員を充足して実施でき、学童および小学生の参加もほぼ目標通りであった。
		・学童フェスティバルを年度末に開催し、保護者や地域の方々に学童保育の内容を知っていただく	・学童フェスティバルは、児童健全育成財団の補助をいただくことができ、小学校図書館での調べ学習など活動内容をより深めることができた。
		・水光熱費+ごみ処理費用+消耗品費の削減、(前年度比95%)を目指す	・十分検討はできていない。決算確定後再度検討する。
事故報告	事故件数	内容	対策
	0		
苦情申立	0件	なし	なし

平成30年度 施設別 年間事業報告
施設名(認定こども園わかば保育園)

項目	内 容		具体的方策
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		福祉サービスの先駆者としてキャリアの向上を図りより良い福祉の提供に努める豊かな地域社会と自然を生かした保育と子育て拠点の事業所として定着を図る
理 念	家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
項目	内 容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 保育理念・保育目標の理解と取り組み 保育と行事のつながりを考えた計画と実践	生命の保持(健康管理や事故に対するの予防)を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境 保育と行事のつながりを考えた計画と実践	事故に対するの振り返りやヒヤリハットの取り組みで予防に努めた 保育と行事をつなげた実践と保護者へ伝える力を養い指導でき、保護者にも評価された
	2 保育に活かせる計画の立案と実践の充実	書式の連続性に従い情報収集、分析および課題設定を行い、長期的・短期的計画の見直しをする 小学校へ繋げる保育・教育を展開と記録の充実	新保育指針の改定にともない計画の見直しと活用について、ともに相談しあい立案できた。 小学校との連携を一年通し行う手順の確立
	3 人材育成と職員の資質向上	キャリアアップシートの活用と精査 職員が学びたい研修内容を立案実施をし保育へ活かせる連続性を確立する 定められた時間内に効率よく出来る仕事方法や環境を考え職員間で意識し実践	作業療法士による言葉についての研修、運動・リズムの基礎などに取り組み、指導の悩みを解決できる研修を行うことで自信が持て、即実践につながられた
	4 地域に根差した園の取り組みのPR	周辺の田んぼや畑作業の見学を通し交流を深める 地域の清掃活動を実施 地域の方と考える防災予防(消火訓練の呼びかけ)	春の遠足では地域の散策や月初めの清掃活動とPRを行う 防災予防、AED講習会の呼びかけを行い参加者を増やした 今後も継続していく
その他計画と目標	数 値 目 標	実 績	来年度へ向けての方策
	年間平均在所率	利用定員に対する年間平均在所率 H29年度90人 89% H30年度95人 94%	途中入園者に柔軟に対応できる職員を確保する
	病後児保育事業	H29年度 2人 H30年度 2人 看護師を通年配置が出来たが利用の伸び悩みは宣伝不足が原因	塩沢地域の保育園や小学校への宣伝を重視する
	一時預かり事業(余裕活用型)	H29年度36人 H30年度76人 里帰り出産者に対応が出来た	職員を確保をし十分に事業ができる体制を整える
	地域子育て支援事業	H29年度253組 述べ相談件数58件 H30年度336組 述べ相談件数48件	職員を確保をし十分に事業ができる体制を整える
事故報告	内 容		対 策
	2件 2歳児女児 上唇小帯切傷	ボール遊びで転倒後他児がぶつかる	ボール遊びに適した場所の確保
	3件 5歳児女児 頭部打撲と切り傷	ステージひなだんより落下	ひなだんに上がった時の動き方の指導をおこなう
3件 4歳児男児 右手人差し指突き指	ボール遊びで床から拾う際突き指	ボールの扱い方等の指導をおこなう	
苦情申立	0件	なし	なし

平成30年度 施設別 年間事業報告
施設名(小規模保育所わかば保育園)

基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります	
理念		家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る	
項目	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 保育理念・保育目標の理解と取り組み	<p>生命の保持（健康管理や事故に対しての予防）を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える</p> <p>心身共に明るく、思いやりや気配りができ、自ら考えて行動が出来るように保育者がお手本となり、保育に携わる</p>	<p>0.1歳児に必要な生活や遊びの環境づくりに心がけた また、保護者への保育説明を行うことで安心して利用できると評価された</p> <p>保護者支援として相談・アドバイス等に心がけた</p>
	2 人材育成と職員の質の向上	<p>キャリアアップシートの活用と精査職員が学びたい研修内容を立案実施をし保育へ活かせる連続性を確立</p> <p>定められた時間内に効率よく出来る仕事方法を職員間で意識し実践</p>	<p>日常の生活や保育の中で無資格職員との研修の場を設け職員全体の向上心のスキルアップにつなげた</p> <p>会議内容の精査・見直しをし昼寝中の時間をうまく活用し効率よく日課を進めることが課題</p>
	3 地域の社会との関わりを深める	<p>介護施設職員との連携（急病時や緊急事態に職員間での連絡を密に行う）</p> <p>地域の方と考える防災予防（消火訓練の呼びかけ）</p>	<p>防災管理者の変更に伴い居宅職員や総合事業職員と連携を図る機会が増え毎月話し合いが出来ているので継続させたい</p>
新規事業計画	介護施設との新規事業	<p>未満児保育を考えた改修工事を行い生活しやすい環境づくり</p> <p>新規事業（総合事業）を行う中で介護施設職員との連携の在り方を精査</p>	<p>総合事業との行事への参加方法を話し合い積極的携わることを取り入れてきた</p> <p>今後とも継続</p>
目標と成果	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
	年間平均在所率は100パーセント	<p>利用定員 15人</p> <p>年間平均在所率69%</p>	職員を確保をし十分に事業ができる体制を整える
事故報告	件数	内容	対策
	なし		
苦情申立	なし		

平成30年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告
施設名(塩沢デイサービスセンターゆきつばき)

理 念		私たちは、ご利用者の皆様がゆきつばきでの生活を思う存分楽しんで頂けることを願っています。			
項 目		内 容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	ゆきつばきでの利用している時間に限らず、ご利用者自身が望む生活を尊重するため、ご利用者本人を抜きに考えず、自ら選択できるような支援を大切にする。	ゆきつばきの理念をよく理解し、利用者やご家族にとって心地よい環境(施設・人)として、信頼される施設を目指す。	利用者の持っている機能を活かしたプログラムを実施し、制作活動に関しては作品展をはじめ施設内で展示。また、その他野菜作りや花壇の草取り、お花を生けるなど活き活きできる活動を行い、お便りやブログなどでご家族や地域に発信している。	
			利用者の感情や思いを受け止め、支援者として思いやりのあるサービスを提供する。	利用者の老化に伴う機能低下などによる精神的不安を共有し、身体的介護を行うだけでなく寄り添う姿勢を大切にしている。	
	2	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、地域に貢献する活動を実施することで、地域からの信頼を得るとともに、ゆきつばきの需要を高める。	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	定期的な交流は継続的に行っている。単なる慣行とならぬよう、目的意識をしっかりと持って今後も実施していきたい。	
			ボランティアの受入れなど、地域住民皆様から足を運んで頂き、地域に開かれた施設として信頼を得ていく。	新たなボランティアさんが増え、ボランティアの皆さんの張り合いに繋がっている様子。地域の方との距離を維持していきたい。	
			家族会・介護者の交流会といった地域貢献のためのコミュニティを設立する。	人員や金銭的に余裕がなく事業としての運営は困難であったが、地域によってはゆきつばきを利用して頂いている家族間で情報交換などを行っている。	
			平成26年の地域で働ける高齢者育成事業以降、高齢者の働ける場となっているが、今年度より加えて障がいのある若い人材も雇用し、施設において継続して働けるよう指導していく。	総合支援学校からの新卒を採用したが、退職することなく継続して雇用できている。また地域の高齢者の方の介護予防にも繋がっており、今後も継続していきたい。	
	3	老朽化してきた車両・施設設備の整備。	近年、老朽化してきた車両の修理代が増加してきている。毎年各種助成金を申請しているが落選。本年度も引き続き申請を行うが、中古車の購入も含め車両整備を行う。	つばき園の改修に伴い、つばき園から車両を移すことができ、購入を今年度は見送る。	
			特浴(機械浴槽)の部品の製造が終了し、入れ替え時期にきている。助成金の申請を行い入れ替える。	車両と同様につばき園の改修工事に伴い、特浴(機械浴槽)を移設することができ、購入を回避。	
	目標と成果		数値目標	実 績	来年度に向けての方策
			620/月(年間:7,440)	【H29年度】 596/月(年間:7,153) 【H30年度】 584/月(年間:7,010)	秋から冬にかけての利用実績の落ち込みが毎年ある。新規の受入れを早急に行うと共に、ショートステイなどで休まれる方も多くいらっしゃるのも要因として考えられ、1日の定員を超えないよう、登録人数を増やす方向で検討している。
	事故 苦情 報告	事故 苦情 件数	内 容		対 策
		0件			大きな事故や苦情もなく安定した運営ができています。

平成30年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告
施設名(総合施設ゆきつばき)

理 念		私たちは、ご利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、心と身体の健康を支えます。		
項 目		内 容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1	機能訓練だけに特化せず、ご利用者のための付加価値を追求する。	ご利用者の感情や思いを受け止め、支援者として希望を叶えられるサービスを提供する。	利用者の持っている機能を活かしたプログラムを実施し、制作活動に関しては作品展をはじめ施設内で展示。また、おやつ作りなど生き生きできる活動を行い、大変喜ばれている。
			ご利用者の声を大切に、身体機能の向上を図り、生きがい・遣りがいを有するサービスを提供する。	週に一度の利用を楽しみにして頂いている。介護度の維持ができており、成果が表れている。このまま継続して利用して頂けるよう努める。
	2	地域のニーズと、今後の流れを再確認し、柔軟に対応していく。	地域のニーズや制度の変化などの情報の把握に努め、地域に開かれた施設として、地域の福祉の充実に貢献する。	地域の介護職員やケアマネの人材不足が深刻な状態であり、事業の拡大は困難。しかしながら、そんな中でも地域に総合事業の良さ、大切さを地域に発信する方法を考えていきたい。
			家族会・介護者の交流会といった地域貢献のためのコミュニティを設立する。	人員や金銭的に余裕がなく事業としての運営は困難であったが、地域によってはゆきつばきを利用して頂いている家族間で情報交換などを行っている。
	3	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、総合施設ゆきつばきの需要を高める。	ご利用者同士、職員にとどまらず、園児との交流やボランティアの受入れなど新しい出会いの場を提供する。	若葉会にしができないサービスとして、園児との交流を今後も大切にしていきたい。今のところボランティアを受け入れるような作業、機会はないが、今後必要時にスムーズに受け入れられるよう、ゆきつばきと連携を図りながら調整していく。
			法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	定期的な交流は継続的に行っている。単なる慣行とならぬよう、目的意識をしっかりと持って今後も実施していきたい。
目標と成果		数値目標	実 績	来年度に向けての方策
		総合事業においては稼働率を上げるための方策を考え、6月には月間利用人数50%を越え、安定した運営に努める。また、地域にひらかれた施設として地域貢献のためのコミュニティを設立する。	【H30年度】 平均46.3/月(年間:555) 稼働率57.8% ※年度途中より営業日を週1回から2回に増やしている。また今年に入り月の実績が50を超えており利用実績は引き続き増加傾向。	計画通り6月には回数を増やしており、その後も新規の受入れを行っている。地域のケアマネ不足の影響はあるが、このままの水準を維持していきたい。
事故 苦情 報告	事故 苦情 件数	内 容		対 策
	0件			大きな事故や苦情もなく安定した運営ができています。

H30年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 居宅介護支援事業所 ゆきつばき

基本的な考え方	私達は地域の児童・高齢者の皆様のより良い生活の実現を目指し、時代に流れの先にある私達にしか担えないこと、私達だから挑戦しなければならないことを適時、的確に捉え自立した地域社会の一員としての自覚と幼児教育、福祉サービスの先駆者としての誇りをもち果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。			
理念	住み慣れた地域で利用者が自分らしく生活できるように支援します。			
具体的方策	急増する介護申請に正確、適切に対応できるように人材育成の取り組み、また一人ひとりの資質向上を目指す。			
項目	内容	具体的方策	評価、反省	
年度基本方針	1 「職員の資質向上」	・他職員のアセスメント同行訪問、会議の見学。良い所、改善点の話し合いと情報共有 (毎月予定を決め実施)	・アセスメントについてはご利用者の状況や同行された職員の緊張感も考え実行は難しかった。・会議への同行については年度初めには行うことができ学ぶところも実感できたが個々の仕事も忙しく実現できなかった。・自分の仕事のみにとらわれず他職員の仕事に関心を持つようにしたい。	
		・作成したケアプランの回覧、意見を出し合う。(ケアプラン作成後にすぐに回覧)	・サービス担当者会議に間に合わせ事業所に配布するのが精一杯であり事業所内で回覧をし意見を求めるまでの余裕がない状況。・今後も声をかけあい確認を居宅会議にて行うなど工夫していきたい。	
		・個々のケアプランについて評価、アドバイスを受ける。 (包括支援センターに相談を行う)	・新規依頼が10月までに月平均3名。サービス不足によりプラン作成に支障今までにない問題もプラスされ事業所内が落ち着かず学ぶ姿勢をもつ余裕が持てなかった。	
		・月に1回、月間ケアマネジャーを資料に勉強会 (月の初旬に予定をする)	・毎月日を決め実施できた。日頃忙しさを理由に本を読むことができなかったが共通の資料で大切な点を確認し合ったり意見を言い合う機会が持て良かった。今後も継続していく。	
		・各種研修への参加、包括支援センター開催の事例研究会の参加、職場内の事例検討会の開催	・包括主催の事例検討会には特定事業所加算の要件でもあり必ず出席し他事業所の事例についても学ぶことができた。また個人研修計画も立て必要な研修には積極的に参加できた。	
	2 「2年目の職員育成」	・事業所各職員が職員育成に取り組む姿勢をもち人材を育てる。	・管理者不在時にも新人職員からの疑問があれば先輩職員が丁寧に説明、指導を行いそれでも不明な点は皆で共有し疑問解消に取り組むことができた。	
		・いつでも相談しやすい職場の環境、雰囲気作り。	・各人が業務の大変さを理解した上で職場の人間関係作りを大切にできた。自己申告書面談時においても職場の雰囲気は良いと回答を得ていた。	
	3 「事業所運営の見直し」	・事業所運営、体制に関する検討、見直し。(後期より)	・11月末、体調不安を理由に1名退職希望あり。その後は交代、加えて新規利用の対応にも追われた。4名体制となり事業所として安定した体制になると思っていた矢先であり振り出しに戻った。退職を決断する前の相談ができていなかったことが大きな反省点。	
		・主任ケアマネジャーを増員のために研修会参加を皆で支える。 (研修会秋予定)	・ケアマネジャー5年の職務経験により主任ケアマネジャー研修を1名受講予定であったが本人の申し込みの手違いにより受講することができなかった。・管理者としても申し込み時再度確認を行うべきだった。	
		・事業所対象のアンケートを実施し他者からの評価を確認し振り返りを行う。(実施は秋予定)	・上記のとおり事業所としても各人の業務においてもアンケート実施を行う余裕なく年度が過ぎてしまった。	
	苦情の申し出	なし		
		数値目標	実績	来年度へ向けての方策
目標と実績	利用実績、平均110人を維持する。	介護:1097件 前年比109 % 予防: 119件 " 86 % 合計: 1216件 " 106%月 平均 101 人	・在職する職員については今後もモチベーションを落とさず業務を遂行できるように事業所内でのコミュニケーションを密にとっていくよう心がける。・ケアマネジャー不足が地域の課題にもなっており求人募集を行い下半期～人材育成に取り組む。	

平成30年度 施設別 年間事業報告

施設名(雲洞デイサービスセンターつばき園・雲洞グループホームつばき園)

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちがただから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	「その人らしさを尊重します」			
	「笑顔で誠実な対応をします」			
	「地域との繋がりを大切にします」			
項目	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	「認知症に対する取り組み」	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「現在」に着目し、利用者本人がサービスの選択、決定、参画が出来る機会を提供できることを目標とする。 ・各職員の認知症キャラバンメイト資格の取得を推進する。つばき園が主体となり、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を地域に広める。 ・提供できるサービスの可能性を模索し、利用者のニーズに対する柔軟な対応を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人の選択によって生活をしていただいているが、選択肢が少なく、参画にまで至っていないのが現状。職員だけの話し合いではなく、当事者の参加、参画をもっと意識していかなければならない。 ・平成30年度は、六日町中学校1年生への認知症サポーター養成講座で講師として1名派遣。地域運営推進会議などの場においても認知症の理解、普及に努めた。 ・制度上一部のサービスが提供できないといったケースは30年度なかったが、今後予想される細かなニーズに対応していくためには、広い視野を持ってサービスを提供していく必要があると感じる。
	2	「職員の資質向上と人材育成」	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスを活かした目標の明確化を行い、職員自身が意欲的にキャリアアップを目指すような環境を目指す。 ・外部研修、内部研修へ積極的に参加し、自己研鑽に励む。 ・自己点検、自己評価から抽出された課題を計画的に改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスの実施は定着してきているが、内容について見直しが出来ていない。 ・外部研修では腰痛予防研修などの現場を意識しやすい研修への参加ができ、参加職員のモチベーションアップに繋がった。 ・利用者の機能訓練などについて、具体的な方策を話し合い、決めることができたが、評価が遅れており、PDCAのサイクルが機能するように努めたい。
	3	「雰囲気の良い施設作り」	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術だけでなく、対人援助の基本となる接遇面においても、プロを目指し、つばき園に出入りする誰もが心地よいと感じる環境を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切ケアについての会議が定期的であり、職員の日常的な言動は注視できていると感じる。接遇の研修を受講するなどして、基本的な対応を再確認しておきたい。
	4	「虐待防止の強化」	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、虐待の発生防止、予防に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度より身体拘束や虐待などについて、法令上で取組強化が明記された。つばき園でも法令に遵守し、研修の実施や委員会を発足し、取組を強化した。
	5	「運営改善と柔軟な職員配置」	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の連携を図り、無駄のない人員配置を行なう。 ・経費の節減に取り組む。 ・施設の特色をアピールし、デイサービス利用者の増員、グループホーム入居待機者の確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の兼務者が柔軟に動けるようになってきたことで、無駄ない人員配置が出来てきている。 ・前年度までと同様に消耗品の価格比較を行い、経費削減に努めている。 ・他のサービスの継続が困難である方の紹介なども多く、認知症対応型施設としての認識は定着してきていると感じる。
目標と成果	数値目標		実績	来年度へ向けての方策
	デイサービス	年間延べ利用者数 3180人	H29年度:1887人 月平均:157人 H30年度:1625人 月平均:135人 H31年1月より定員12名から3名に変更	・デイサービスの利用人数によって各ユニットの雰囲気が変わってくるので、1日の利用人数についてはしっかりと考察していきたい。
	グループホーム	年間延べ利用者数 3285人(365日×9人)	H29年度:3094人 月平均:258人 H30年度:3104人 月平均:259人	・入退居にかかる空き床期間を2週間以内とし、計画的に入退居の手続きを進める。
事故苦情報告	事故苦情件数	内容		対策
	0件	苦情なし		